

取組名称	被災地での桜の開花を目指して			団体設立後の経過年数	139年
応募取組主体名称	宮城県農業高等学校 科学部 桜プロジェクトチーム	活動地域	宮城県 他	応募取組の活動年数	12年
取組主体の種別	企業 / 学校 / NPO・任意団体 / 自治体 / 地域コミュニティ / 個人 / ユース部門（概ね30代以下の次世代を担う若手が中心となって実施する取組はこちらにもチェックしてください） / その他				
応募取組に関連する実行委員会特別賞	サステナブルデザイン賞 / 子どもエンパワーメント賞 / 環境と福祉賞 / 環境地域ブランディング賞 / 環境ひとづくり賞 / 環境社会イノベーション賞 / 地球と人への想いやり賞 / SDGsビジネス賞 / EXPO2025 いのち動的平衡賞				



取組の要旨

東日本大震災時、私たちの学校は津波により全壊しましたが、被災した校地内で桜が開花したのを機に、震災復興を願い桜の植樹活動を続けています。しかし、沿岸部での植樹活動は困難を極めました。そこで、新宿御苑でのアドバイスを元に、「塩害に強い桜」「植樹場所の土壌改善」「蒸散量を下げる」「Fe²⁺の添加」の4点を満たせば、震災後も塩害の続く被災地でも桜の植樹が可能になるという仮説を構築して研究にあたりました。

実績の要旨

福島県唯一の震災遺構「請戸小学校」や西日本豪雨災害で被災した広島県への植樹等を成功させました。また、9カ国の農業省等から来日いただいた研修員の方に宮農オリジナル桜である「玉夢桜」の挿し木体験を行っていただきました。この桜はJICA筑波センターでの仮植を経て、海外への植樹予定です。そして、日本花の会の協力のもと苗生産も本格化し、今までの被災地での桜の植樹本数は1000本を超えます。

取組評価の要旨	環境への貢献	東日本大震災により破壊された環境の再生のために、未だ植物の生育が困難な被災地での桜の植樹活動に取り組んでいます。
	社会・経済への貢献	被災地での桜の開花が地域の方々の笑顔につながると信じ、桜の植樹活動を地域の方々と共に取り組んでいます。
	地域資源の活用	東日本大震災の津波に耐え、奇跡的に生き残った旧校舎の桜を増やし、被災地に植える活動に取り組んでいます。
	普及・汎用性	福島県唯一の震災遺構である「請戸小学校」や西日本豪雨災害で被災した広島県への植樹を成功させ、メディアにも大きく取り上げられました。
	革新・ユニーク性	CO ₂ 吸収量と耐塩性に優れる「玉夢桜」や今回作成した0.5円ででき市販の92.5倍のFe ²⁺ を含む「宮農式桜活力剤」はユニーク性に富みます。
	継続性	私たちの植樹活動は単独ではなく、常に地域の方々と共に植樹を行い、その後の生育管理は地域の方々が主体で行うので継続可能です。

展望の要旨

地域の方々と連携しつつ、次の植樹目標2000本を目指し、今後も“未来を照らす桜”を笑顔で伝えていきます。